

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	・授業のめあて、身に付けさせる力を明確にし、 <u>基礎基本の定着</u> を図るとともに、それらを活用しながら思考・判断・ <u>表現する力</u> を伸ばしていく。	中間評価	・習熟度別授業、漢字・音読などの基礎基本の内容を反復的の成果から学力の定着が見られ、さらに表現力の育成をめざし、表現の場を増やしていく。	最終評価	
環境づくり		・話し方や聞き方の指導改善、 <u>かかわり合う活動の充実</u> 、構造的な板書や <u>I C T活用</u> を通して、根拠を基に互いの考えを尊重しながら伝え合える学習環境を築いていく。		・かかわり合う活動や ICT 活用の場面を増やすことができているが、ねらいを明確にし、継続的な取り組みが必要である。		

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語	<u>学</u> ひらがなを正しく書くことができるようになってきており、複数の文をつなげて文章を書くことにも慣れてきた。漢字の書き順や字形を整えるために継続した練習が必要である。 <u>学</u> 音読では、言葉のまとまりを意識して読むことができる児童と、まとまりで読むことが難しい児童がいる。 <u>学</u> 文字のきまりや文のきまりの定着が不十分な児童がいる。繰り返し練習や、個々に応じた指導が必要である。	・漢字を正しい書き順で書くこと、字形を整えることに課題がある。 ・言葉のまとまりや意味を理解して音読することに課題があり、個々による差も大きくなってきている。 ・「は・を・へ」や、句読点の理解が十分でない児童がいる。全体的にも、言葉の理解の定着が不十分な面がある。	・新出の漢字の学習では、字形の確認をしながら行い、筆順を個々に丁寧に確認していく。また、ドリルだけでなく、繰り返し練習する機会を設ける。 ・視写を行ったり、音読を毎日行ったりする中で、言葉のまとまりや意味を理解していく。 ・文字のきまりの練習問題を繰り返し行うことと、授業中に個々の定着について記録を取りながら指導を行う。		
	算数	<u>学</u> 足し算や引き算の計算は、具体物の活用をしながら、基礎的な知識・理解を身に付けてきたが、継続的な練習をしていくことで、より定着を図っていく必要がある。 <u>学</u> 文章問題では、文章に印をつけて立式をすることや、答えに数詞をつけることは定着がみられるが、文章で問われていることを正確に捉えられないこともある。	・計算技能では、個人差が大きい。 ・文章問題では、文章を正しく読み取ることに課題があり、立式と答えの書き方が正しくできない児童がいる。また、個人差が大きい。	・個人差に対応できるように、練習問題の基礎と応用を準備し、指導にあたる。また、学習の始めにフラッシュカードや個人持ちの計算カードを活用して繰り返し練習を行う。 ・文章の読み取りは、国語の学習での視写を活用し、教科横断的に行い、数字や数詞に印をつける習慣を定着させるため、繰り返し指導をする。		
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	<u>学</u> ひらがなや漢字を正しく書く力が定着しつつある。また、自分の考えを書く力が伸びてきている。 <u>学</u> 「言語についての知識・技能」、「読むこと」が十分に定着していない児童がいる。個に応じた指導が必要である。 <u>学</u> 「書くこと」の力が少しずつ付いている。継続的に取り組む必要がある。	・正しく、ていねいに漢字を書くことが十分でない。 ・言葉の理解や文章の読解力が十分でない児童がいる。 ・豊かな多様な表現ができる児童が多くない。	・授業や家庭学習の中で、反復練習の時間を十分確保する。 ・繰り返し音読に取り組んだり、読書の機会を増やすことで語彙力を高めたりする。 ・日常的に「書くこと」の活動を設定し、児童同士の交流を行い、表現力を高めていく。	・家庭学習などで反復練習に毎日取り組ませるだけでなく、授業中の隙間時間も利用して取り組ませたことで、正しく書くことが定着してきている。 ・音読、読書は引き続き毎日継続して取り組ませている。 ・定期的に日記を課題に出したり、作文を書かせたりして書くことの表現力を高めていけるようにする。	
	算数	<u>学</u> 具体物の活用や反復して学習に取り組むことで、計算技能や基礎的な知識・理解が高まっている。 <u>学</u> 文章問題を自分の力で理解し、解くことが難しい児童がいる。順序よく課題に取り組む力を付けさせたい。 <u>学</u> 式を立てることはできるが、自分の考えを表現することが難しい児童がいる。発表場面を多く設定し、力を伸ばしたい。	・計算技能や知識・理解に個人差がある。 ・文章問題を自分の力で、順序よく解くことが難しい児童がいる。 ・式の立て方や問題の解き方について、自分の考えを説明する力が十分でない。	・授業や家庭学習の中で、個に応じて反復して取り組む指導を継続していく。 ・授業の中で具体物の活用や例を挙げたりすることで、文章問題を正しく理解する力を付けていく。 ・授業の中で、ノートに考えを書いたり、児童同士で伝え合ったりする場面を多く設定する。	・課題の量や、取り組みせ方を工夫することで、個人差が開かないようになってきた。 ・具体物や図を取り入れることで、文章問題を正しく読み取れるようになってきた。 ・考えの書き方のパターンを示したことで、自分の考えをどう表現したらよいか分かってきた。	
3	国語	<u>調</u> 「読むこと」の正答率は、全国平均を上回り、定着しつつある。国語への関心意欲も、全国平均と同等である。 <u>調</u> 「書くこと」の正答率は、全国平均をやや下回るが、前年度から継続的に書く活動には意欲的に取り組んでいる。 <u>学</u> 授業での課題やワークテストの状況から漢字の読み書きや文章の読解力は、定着しつつある。一方で十分に定着していない児童もいる。	・正しく、ていねいに漢字を書くことが十分でない。 ・言葉の理解や文章の読解力が十分でない児童がいる。 ・「書くこと」について、自分の言葉を選び表現することが苦手な児童がいる。	・授業や家庭学習の中で、反復練習の時間を十分確保する。 ・繰り返し音読に取り組んだり、読書の機会を増やすことで語彙力を高めたりする。 ・日常的に「書くこと」の活動を設定し、児童同士の交流を行い、表現力を高めていく。また、国語辞典の活用を促し、語彙力や表現力の向上を図る。	・国語辞書を日常的に使用することにより、漢字の意味を考えながら書こうとする習慣が付いてきている。 ・音読を毎日取り組んだことで、分かりやすく、発表する力が付いてきた。 ・絵本やマンガ等の文字の少ない本を読んでいる児童が少なく、語彙力や書くことの表現力に課題がある。読書の機会を増やすだけでなく、本の選び方も指導していく。	
	算数	<u>調</u> 「数量や図形についての技能」の正答率は、全国平均と同等であり、九九や計算に自信をもつ児童が増えている。 <u>調</u> 「数量や図形についての知識・理解」の正答率は、全国平均をやや下回っており、確実な理解を促す必要がある。 <u>学</u> 授業での課題やワークテストの状況から、意欲が高く、計算技能が定着しつつある。一方で、既習事項を活用する力を伸ばしていく必要がある。	・計算技能や知識・理解に個人差がある。 ・基礎的な知識・理解が十分でない児童がいる。 ・文章問題や応用問題が苦手な児童がいる。	・授業や家庭学習の中で、個に応じて反復して取り組む指導を継続していく。 ・授業の中で具体物の活用や例を挙げたり、習熟度別の授業を行うことで個に応じた指導をしたりする。 ・授業の中で、ノートに考えを書いたり、児童同士で伝え合ったりする場面を多く設定する。	・習熟度別の授業を行うことで、個に応じた指導ができ、理解に時間のかかる児童への支援ができた。 ・ノートの書き方を丁寧に指導したことで、分かりやすく、見やすいノート作りができる児童が増えた。 ・計算等の技能はできるが、考え方の説明ができる児童が少ない。ペア、グループでの教え合いの場面を多く設定するようにする。	

4	国語	調「読むこと」の正答率は、全国平均を9ポイント上回り、国語への関心意欲も、全国平均を大きく上回る。 調「書くこと」の正答率は、全国平均を5ポイント上回っている、継続的に書くことに取り組み、さらに伸ばしていく。 学授業での課題やワークテストの状況から漢字の読み書きや文章の読解力は、定着しつつある。一方で、自分の考えを的確に表現する力を高めていく必要がある。	・漢字を書くことはできるが、使うことが十分でない。 ・言葉の理解や文章の読解力が十分でない児童がいる。 ・「書くこと」について、自分の考えを相手や目的意識をもち、的確に表現する力が十分でない。	・授業や家庭学習の中で、漢字を使うことを意識付け、継続して取り組む。 ・めあてをはっきりさせ音読したり、読書の機会を増やしたりすることで語彙力を高め、読解力の向上をめざす。 ・日常的に「書くこと」の活動を設定し、児童同士の交流を行い、表現力を高めていく。また、国語辞典の活用を促し、語彙力や表現力の向上を図る。	・家庭学習等で、定期的に取り組みしてきた結果、丁寧に形に気をつけて漢字を学習するようになってきている。 ・音読については、無理ない量で毎日取り組ませている。児童同士で本を紹介し合う習慣があることで、本に触れる機会は増えている。 ・国語辞典の活用を授業でも取り入れることで、自主的に調べる習慣が徐々にでき、語彙力は身に付いてきている。	
	算数	調「数量や図形についての技能」や「知識・理解」の正答率は、ともに全国平均を5ポイント以上上回っている。 調「数学的な考え方」の正答率は、全国平均を6ポイント上回っている。一方で、課題がある児童もいる。 学授業での課題やワークテストの状況から、意欲が高く、全体的に理解も深まっている。一方で、計算技能や知識・理解の定着が十分でない児童がいる。	・計算技能や知識・理解に個人差がある。 ・基礎的な知識・理解が十分でない児童がいる。 ・文章問題や応用問題が苦手な児童がいる。	・授業や家庭学習の中で、個に応じて反復して取り組む指導を継続していく。 ・授業の中で具体物の活用や例を挙げたり、習熟度別の授業を行うことで個に応じた指導をしたりする。 ・授業の中で、ノートに考えを書いたり、児童同士で伝え合ったりする場面を多く設定する。ホワイトボードや実物投影機を活用し、意欲的に表現活動に取り組ませる。	・授業や家庭学習でドリルや教科書の問題にそれぞれの児童の習熟度に応じ、集中して取り組めるようになってきた。 ・授業の中で単元に応じて、具体物や半具体物を使用することで、児童の理解も徐々に進んできている。 ・ホワイトボードやICTを取り入れることで、多くの児童間で学習内容の共有がしやすく、互いの児童の考えを交換する楽しさが少しずつ理解できてきている。	
5	国語	調「読むこと」の正答率は、全国平均を9ポイント上回り、定着している。国語への関心意欲も高い。 調「書くこと」の正答率は、全国平均を5ポイント上回っている。一方で、十分に定着していない児童もいる。 学授業での課題やワークテストの状況から漢字の読み書きや文章の読解力は、定着しつつある。一方で、自分の考えをわかりやすく表現する力をさらに伸ばしていく必要がある。	・漢字を書くことはできるが、使うことが十分でない。 ・言葉の理解や文章の読解力が十分でない児童がいる。 ・「書くこと」について、自分の考えを相手や目的意識をもち、わかりやすく豊かに表現する力が十分でない。	・授業や家庭学習の中で、漢字を使うことを意識付け、継続して取り組む。全体として、都の学力評価の平均は高い。 ・文章を基にした音読の工夫や要点を探しながら音読することで読解力を高める。また、読書の機会を増やしたりすることで語彙力を高め、読解力のさらなる向上をめざす。 ・日常的に「書くこと」の活動を設定し、児童同士の交流を行い、表現力を高めていく。また、国語辞典の活用や文章を見直す習慣を付け、語彙力や表現力の向上を図る。	・授業で既習の漢字を使うよう促すことはもちろん、漢字小テストで新出漢字の熟語を追加で書くなど意識的に語彙を高めるようにしている。 ・国語の学習や読書月間に関連させ、読書の機会を促している。 ・目的意識をもったり、文型を例示したりしながら、「書く」ことに継続的に取り組んでいる。語彙力は、継続的な指導を基にさらに高めていく必要がある。	
	算数	調「数量や図形についての技能」・「知識・理解」の正答率は、全国平均と同等であり、基礎的な力が定着している。 調「数学的な考え方」の正答率は、全国平均を8ポイント上回っている。個に応じた指導で、さらに伸ばしていく。 学授業での課題やワークテストの状況から、意欲が高く、基礎的な学力は定着している。一方で、計算技能や知識・理解の定着が十分でない児童がいる。	・計算技能や知識・理解に個人差がある。 ・基礎的な知識・理解が十分でない児童がいる。 ・文章問題や応用問題を順序よく解いたり、自分の考えを説明したりすることが苦手な児童がいる	・授業や家庭学習の中で、個に応じて反復して取り組む指導を継続していく。全体として、都の学力評価の平均は高い。 ・授業の中で具体物の活用や例を挙げたり、習熟度別の授業を行うことで個に応じた指導をしたりする。 ・授業の中で、ノートに考えを書いたり、児童同士で伝え合ったりする場面を多く設定する。ホワイトボードや実物投影機を活用し、意欲的に表現活動に取り組ませる。	・ドリルへの取組や反復学習、個別支援などを続け、改善している児童が増えている。 ・習熟度別に合わせて、実物や経験、体験と結び付けて取り組むことで、実感を伴った理解となるように授業を進めている。 ・ノート、タブレット端末を活用し、表現の機会を多くすることで、応用問題にも意欲的に取り組むようにしている。	
6	国語	調「読むこと」の正答率は、全国平均と同等で、定着しつつある。国語への関心意欲も、全国平均と同等である。 調「書くこと」の正答率は、全国平均をやや上回る。前年度から継続的に書く活動には意欲的に取り組んでいる。 学授業での課題やワークテストの状況から漢字の読み書きや文章の読解力は、定着しつつある。一方で十分に定着していない児童もいる。	・漢字を書くことはできるが、使うことが十分でない。 ・言葉の理解や文章の要点をとらえる読解力が十分でない児童がいる。 ・「書くこと」について、自分の考えを相手や目的意識をもち、わかりやすく豊かに表現したり文章を構成したりする力が十分でない。	・授業や家庭学習の中で、漢字を使うことを意識付け、継続して取り組む。 ・文章を基にした音読の工夫や要点を探しながら音読することで読解力を高める。また、読書の機会を増やしたりすることで語彙力を高め、読解力のさらなる向上をめざす。 ・日常的に「書くこと」の活動を設定し、児童同士の交流を行い、表現力を高めていく。また、国語辞典の活用や文章を見直す習慣を付け、語彙力や表現力の向上を図る。	・漢字の活用力は付いてきているが、個人差が大きくさらなる意識付けを行っていく。 ・日々の音読の他にも朗読発表会を行い、情景に合わせて読む力の向上を目指す。 ・「書くこと」の指導と交流する時間を十分に取れていなかった。展覧会などの行事を通して、「自分の見方」を伝える経験をすることで、相手に応じた分かりやすい表現や文章構成の工夫ができるように取り組む。	
	算数	調「数量や図形についての技能」の正答率は、全国平均と同等であり、基礎的な力が定着している。 調「数量や図形についての知識・理解」の正答率は、全国平均と同等である。一方で、定着が十分でない児童がいる。 学授業での課題やワークテストの状況から、意欲が高く、基礎的な学力は定着しつつある。一方で、既習事項を活用する力を伸ばしていく必要がある。	・計算技能や知識・理解に個人差がある。 ・基礎的な知識・理解が十分でない児童がいる。 ・文章問題や応用問題を順序よく解いたり、自分の考えを説明したりすることが苦手な児童がいる。また、よりよい考え方を見付ける力が十分でない。	・授業や家庭学習の中で、個に応じて反復して取り組む指導を継続していく。 ・授業の中で具体物の活用や例を挙げたり、習熟度別の授業を行うことで個に応じた指導をしたりする。 ・授業の中で、児童同士で考えを伝え合う場面を多く設定する。ICTを活用し、意欲的に考えを発表させる。よりよい考えを話し合う場面を設定し、思考力を高めていく。	・習熟度指導により、計算の苦手な児童の力は着実に伸びている。継続して習熟度別指導に置いて個人差に応じた指導を行っていく。 ・授業の中での教え合いにより、相互に理解が深まっている。教え合いを教師が見取り、適宜補足や助言を行っていく。	
音楽		学表現領域において、おおむね自分の思いを表現できている。歌声や学期の音色を意識して、演奏する児童が少ない。 学鑑賞領域において、音楽のよさや面白さを感じ取ってはいる。共通事項を手掛かりにして聴き取ろうとする児童が多い。	・音楽から聞き取ったことと感じ取ったことを自分の言葉で伝える力に個人差が見られる。	・毎時間、短時間でも、自分の思いや意図をもって発言する場面を設定する。ペアや3人でコミュニケーションを図りながら、互いの言葉や表現力を高め合っていく。	・ペアや3人組で話し合いをこまめに行ってきたので、自分の思いをもてるようになってきた。 ・友だち同士や教師との対話を通して、表現の工夫やアイデアを自分たちの演奏の表現に生かせるようにしていく。	

図工	学 表現領域において、自分の思いをもち意欲的に活動しようとする姿が見られる反面、思いを表現に繋げる技能が課題である。 学 鑑賞領域では、楽しみながら個々に発言することはできるが、自分の考えを深めたり広げたりすることができる児童が少ない。	学 表現するために、何を使えばよいか決めたり、今までに学習した技術を組み合わせたりする、創造的な技能に課題がある児童がいる。 学 見たり話したりする中で、イメージを明確にすることができない児童が多い。	学 創造的な技能を育成するために、道具や材料の体験を充実させ、基礎的基本的な技術を身に付けられるようにする。 学 イメージを明確にするために、造形的な要素に着目させ、感じたことを振り返ることができるようにする。また、グループで話し合ったり、全体へ発表したりする場を設け、対話の中で気づきや考えを深めることができるようにしていく。	学 平面、立体の表現の中で、材料や道具の組み合わせを考えることを繰り返した。その結果、児童は自分らしい色や形を表せるようになってきている。 学 児童は、以前より自分の気づきを全体に伝えたり、友だちのアイデアに興味をもつようになったりして、表現に深まりが出始めている。今後は鑑賞の機会を活用して、自分の感じたことや思いを、友だちと共有しながら深め合えるよう授業の組み立てを考えたい。	
	学 新しい学級集団での生活の流れや習慣、相手との基本的なかわり方などを丁寧に示し、身につけている。	学 日常生活の流れに沿って行動することができない児童や相手との基本的なかわり方が十分身に付いていない児童がいる。	学 日常生活の様々な場面を通して、生活リズムを明確化し行動できるように促す。また、自分の思いの伝え方や相手の思いの受け止め方を継続的に指導していく。	学 日常生活の流れをおおむね理解し、集中できる場面も増えてきた。発達段階に合わせて、より効果的な学習形態をとるようにする。	

調

…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学

…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況